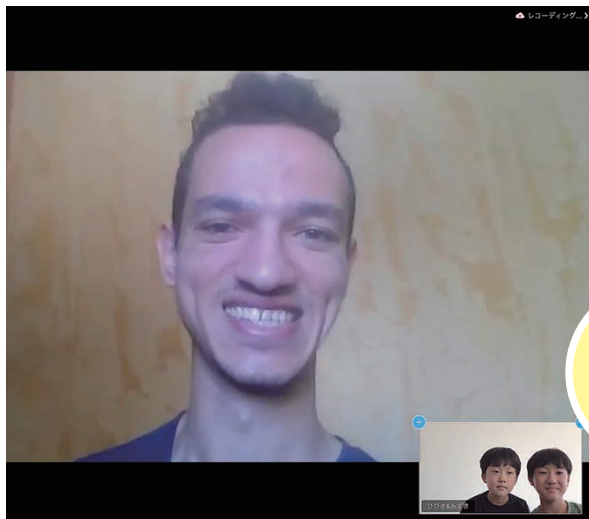




特集

世界はすぐそばに



インターネットや交通網の発達により、どんな身近になつていく世界の国々。日本で暮らす外国人が増え、テレビなどでも他国の情報が流れない日はありません。

広川町には現在、約300人の外国人が暮らしています。5年前と比べるとその差は約2・5倍。国別に見るとベトナム、中国、フィリピン、カンボジア、インドネシアの順に多く、16の国と地域の人住んでいます。平成31年4月には新たな在留資格「特定技能」が追加され、今後さらに多くの外国人が就労・在住することが見込まれています。

以前は、海外に出かけて現地の人と交流する国際交流が主流でした。しかし現在は、海外に出かけなくても、日常生活の中でさまざまな国や文化的背景をもった外国人と接する機会が増え、世界がより身近になりました。

広川町では、世界のさまざまな課題を知り、考え、解決のために行動できる人材を育てるため、広川町国際交流協会を中心に平成27年度から国際理解教育に取り組んでいます。

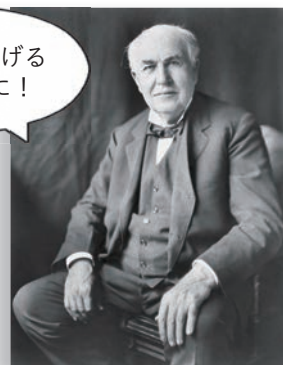
広川っ子エジソン化プロジェクト

発明王と呼ばれるエジソンは、しつこいぐらい「なんで?」「どうして?」と考える子どもだったようです。広川町の子どもたちにも、ちょっとした疑問から興味関心を広げ、新たな選択肢に気づききっかけをつくるため「広川っ子エジソン化プロジェクト」が行われています。インターネットを通じて町内の小中学生と海外のゲストをつなげ、子どもたちの疑問にゲストが直接答えるものです。

8月に行われたプロジェクトのゲストは、エジプトで日本語を学ぶ学生。町内の小中学生がエジプトについて質問しながら、新たな気づきを得ていました。

広川っ子エジソン化プロジェクトの参加者は現在も募集中です。英語を話せなくても大丈夫！ 外国人に質問してみたい小中学生は広川町国際交流協会（☎0943-32-1196）へご連絡ください。

可能性を広げる
きっかけに！



出典: LIBRARY OF CONGRESS
「Thomas Alva Edison, three-quarter length portrait, seated, facing front」(<https://www.loc.gov/item/92522138/>)

ノーラ：（外の風景を見せる）これがエジプトの風景です。
昔の建物です。

りお：これは何階から撮ってるんですか？

ノーラ：3階です。今は夏だから暑い。

りお：エジプトの気温は何度ですか？

ノーラ：うーんと……。

りお：外の温度です。

ノーラ：温度ってどういう意味ですか？

りお：外の暑さはどんな感じですか？

ノーラ：あ、わかった！ 夏の暑さね。37度くらいです。
日本は何度くらいですか？

りお：35度くらいです。

ノーラ：日本も暑いんですね。

ひびき：寿司の中では何が好きですか？

サイエド：えっと……。 （巻き寿司の写真を見せる）

ひびき：巻き寿司が好きなんだ。僕が寿司の中で、1番好きなのはいくらです。

サイエド：いくら……。値段？

ひびき：……あ、なるほど。そういうことか！（写真を見せて）
これがいくらです。食べ物です。

サイエド：食べたことない……。

ひびき：サーモンの卵です。サーモンズエッグ。

サイエド：ああ、なるほど。



ひびき



サイエド

エジプトはニュースなどで危険だと言われているけど、本当は違います。安全だし、人々は優しいし、料理もおいしいです。ぜひ来てください！ いろいろなところを案内しますよ。



りお

ノーラ

ゆいき：エジプトのおいしい果物や野菜を教えてください。
イスマイル：すいか、ぶどう、マンゴー。エジプトの果物はおいしいだけでなくて安い。日本のすいかは何円？

ゆいき：大きいのは1,000円くらいです。

イスマイル：エジプトだと大きいすいかは、50ポンドだよ。
日本円で180円！

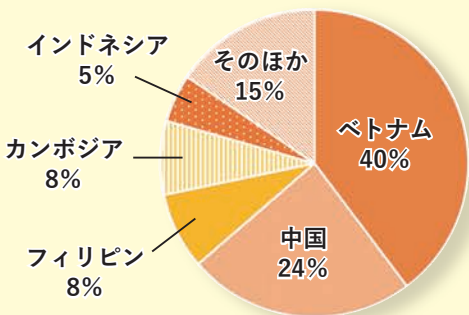
ゆいき：え?! 安い！



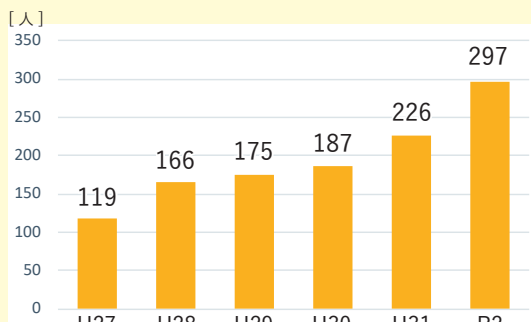
ゆいき



イスマイル



広川町に住む外国人の国別人口構成比(令和2年3月現在)



広川町に住む外国人の数

す。今回の特集では、広川町で行っている国際交流の活動をご紹介します。



ホームステイを受け入れた家庭の声

私たちの家族は海外の子どもたちをホームステイで受け入れたことがあります。事前に、受け入れる子どもの国の文化を勉強する機会があり、日本との違いを学ぶことができました。

それだけではありません。事前研修で2リットルの水とパスタ麺を使い、焼きそばを作った時のことです。大人が思っている以上に子どもは考えるものです。大事な水を考えながら使う。水の大事さを感じると同時に、アフリカでの水事情も学ぶ。できた焼きそばは、ケチケチ水（少ない水）で麺は固めでした。近年、災害が多発していますが、ここで学んだことはそのときにも役立つと思います。

ホストファミリーを通して「楽しかった」と思うことが1番ですが、子どもたちがどう感じ、どう考えるかがより大切だと思っています。今

回のようにさまざまな経験を少しずつ積み重ねることで、点と点がつながったときに子どもたちは「あっ！」と気づくのです。その気づきこそが、多様な価値観を受け入れる力につながっていくのではないのでしょうか。

こんな田舎でも多様な価値観と出会えるチャンスはたくさんあります。ひとつまたひとつといろいろな国に視野を広げると、子どもたちは違った考えが生まれてきます。この経験を得た子どもたちの将来が楽しみです。



木原さんファミリー
とニューカレドニア
のエマニュエル

広川町国際交流協会が、元の公民館で子どもたちに向けた出前講座を行った時のことです。そこでは、子どもたちが「海外に行ったときに突然災害が起こったら、どうやって避難所で過ごせばいいのか」を体験しながら考える講座が行われました。さまざまな言語を使い「言葉がわからない」ということを体験した後、子どもたちからは「何を言っているかわからなかったからイライラした」といった声が聞かれました。「何を言っているかわからなかった

言葉がわからないのは
「聞いていない」から

広川町国際交流協会では、多様な価値観（海外の文化、歴史、習慣、個性など）に触れながら理解を深める学びの機会と、実際に海外の人と交流する機会を組み合わせた活動を行っています。これまで多くの子どもたちが参加し、「英語の先生になりたい」「日本語教師になって海外で働きたい」など、将来の選択肢や価値観を広げるきっかけになりました。



広川町国際交流協会 今年度の取り組み

- ・広川っ子エジソン化プロジェクト [月1回]
- ・Hirokawa 国際クラブ [6～3月]
- ・グローバルお作法講座 [11～12月予定]
- ・ヒロカ1 (ワン) ワールドフェスティバル [3月予定]

団体での国際理解教育講座の開催も随時受け付けています。詳しくは、広川町国際交流協会のホームページをご覧ください。右のQRコードから読み取ることも可能です。



☎ 広川町国際交流協会事務局
 (広川町役場協働推進課まちづくり係内)
 ☎ 0943-32-1196

多様な価値観との 出会いが この町にはある

と言った人はそもそも聞こう
 としましたか？ 自分から積
 極的に話してみようと思しま
 したか？ という講師の問いか
 けに対し、ハツとした表情を
 うかべる子どもたち。どん
 なに伝える側が努力しても、相
 手が聞こうとしなければ伝わ
 らないのです。

皆さんも外国人を目の前に
 したとき「言葉がわからない
 から」と壁をつくってしま
 せんか？ 地域の外国人に出会
 ったら「声をかけてみる」。
 話しかけられたら、その人が
 何を伝えたいのか「一生懸命
 聞いてみる」。皆さんでもで
 きる国際交流のチャンスは身
 近に転がっています。